

11月校長講話「いじめの矢と心」「いじめているきみへ」

今週からなかよし旬間です。今日は、“いじめの矢と心” “いじめているきみへ”というお話です。

まず一つ目”いじめの矢と心”

これが心です。ふだんは見えないんだけど見えるようにしました。3～6年生は一昨年のお話しでも使ったので覚えているでしょうか。

そしてこれがいじめの矢です。いじめには、どんないじめがありますか？言ってくれる人。



「悪口。」「暴力。」「ちくちくことば。」「ことばの暴力。」「いじわるな言葉。」

そうですね。先生はこれから、いろいろないじめの矢を心に刺します。

- ① この矢は「机やノートに**落書き**」。いやがらせ。
- ② この矢は失敗したり、人と違っていることを「**笑ったりする**」からかい。
- ③ この矢は、「ねえねえ、〇〇ちゃんとは**話すの止めよう**」とその人が来たら急におしゃべりをやめる。「**逃げる**」一人ぼっちにする。無視や仲間外しです。
- ④ この矢は遊ぶふりをして、「**たたいたり蹴ったり**」する暴力です。
- ⑤ この矢は、「**死ね**」「**よわむし**」「**きもい**」「**かわいこぶってる**」「**くそじゃん**」などの悪口、言葉の暴力。

⑥ 「**しゃべり方や動き方を真似する**」。からかい

いじめられた人の心はこんなふうにかくさんの矢が刺さっています。実際にはもっとたくさん矢が刺さっているかもしれません。この心はこれからどうなるでしょう。

このように、こころが引き裂かれたり、壊れたりしてしまうかもしれません。死んでしまう人 学校に来られなくなる人 家から出られなくなる人がいるのです。

こんなふうにいじめの矢が突き刺さっている友だちがまわりにいませんか？いたらこのままにしておくのでしょうか？

心が壊れてしまう前に、いじめの矢を抜かないといけません。

でもいじめの矢はいじめられている本人は抜くことができないのです。

どうやったら抜くことができるのでしょうか？

まわりの人が、「一人じゃないよ」「ぼくと一緒に



いればいいよ」「大丈夫だよ、私がついているよ」「心配ないからね」などと声をかけることでしょう。また、「味方だからね」と励ましてくれる人がいると、矢をぬくことができます。いじめをした人が反省して「心からごめんなさい、もう二度としない」と謝ることもよいでしょう。そしていじめをやめさせるのです。

全部抜くことができました。良かった。

自分の周りにいじめの矢が刺さっているお友達がいたら、声をかけ、励ましていじめの矢を抜いてあげてください。

もう一度この心を見てください。いじめの矢が抜けた跡はどうなっていますか？穴のあとが残っています。

全部抜いてもいじめの跡は残るのです。消えないのです。10年たっても、20年たっても、忘れることはできません。だから、いじめは絶対になくさなければいけないのです。



実は中学で、先生はあるときいじめに気がついて、いじめをしてしまった人を叱ったことがあります。その時驚いたことがありました。こんなことを言ったのです。

「ふざけてやっていて、同じ事を自分がされても気にしなかったから、相手がそんなに嫌だったなんて思わなかった。いじめだとは思わなかった」と言うのです。

同じ事を言ったりやったりしても、こうやって矢が刺さらない人もいる。ちょっとしか刺さらない人もいるし、グサグサ刺さる人もいる。自分はいじめているつもりでなくても、いじめになってしまう。相手の気持ちを考えるということが大切だよ。」その生徒に、そう話をしました。

次は「いじめているきみへ」というお話です。絵本を読み聞かせます。

「いじめているきみへ」 春名風花 文 みきぐち え 東京朝日新聞出版

このなかよし旬間中に、人となかよくすることをたくさん学んでください。そして、笑顔あふれる戸倉小学校にしましょう。